

提言資料

2026年度

AI時代のジェンダーギャップ解消に向けた提言

NPO法人Waffle
2026年4月

テクノロジー分野のジェンダーギャップを解消する

団体基本情報

団体名	特定非営利活動法人Waffle
設立	2019年11月（活動は2017年より）
代表	田中 沙弥果
HP	https://waffle-waffle.org/

受賞：日本政府主催Japan SDGs Award 2021パートナーシップ賞
Forbes Japan「世界を変える30歳未満30人」



主な事業

- Waffle AI Changemaker（中高生向けテクノロジーx地域）
- Technovation Girls（6ヶ月でアプリ開発）
- Waffle Club（定期開催プログラム）
- 大学生向けコミュニティ
- 政策提言（骨太の方針 他）



年間約1,000人にプログラミングのハンズオン、5,000人に講演などの機会を提供

1,000+

ハンズオン参加者

AI/プログラミング体験

5,000+

講演・イベント参加者

ロールモデル提示等

47都道府県

プログラム参加者

地方でのアウトリーチ

5年連続

骨太の方針への反映

2021～2025年

2025年度の主なトピック

- 骨太2025にAIを含めた提言。女子中高生の理系進路選択支援プログラムの予算が79→92百万円に増額
- 現地開催型のワークショップを5地域で実施、オンラインの定期開催プログラムも開始
- Technovation Girls 2026：47都道府県から400人以上の中高生がオンラインプログラムに参加

5年連続で骨太の方針に明記、予算が拡大

2021

IT分野を始めとした理工系分野において、特に女性の身近なロールモデルを創出するとともに、本分野の女性教員の割合を向上する取組を進める。学校推薦型選抜や総合型選抜に女子を対象とする枠の設定やオープンキャンパスの実施、女子学生向けのSTEAM教育拠点の整備、理系分野で優れた業績を残している女性研究者の話聞くことができる機会の充実等の総合的な支援策を講ずることにより、地方大学を含めた理工系学部における女子学生の割合の向上を促す。

2022

ジェンダーバイアス解消のための総合的な理解の醸成と支援を図り、女子中高生のIT分野を始めとした理工系の学びや分野選択を促進するなどにより、理工系分野の女性教員及び女子学生の割合を向上する取組を加速する。

2023

IT分野を始め理工系分野の大学・高専生、教員等に占める女性の割合向上に向け、女子中高生の同分野の学びや分野選択の促進など産学官連携で地域一体となった取組等を加速するとともに、大学の上位職への女性研究者登用を促進する取組を強化する。

2024

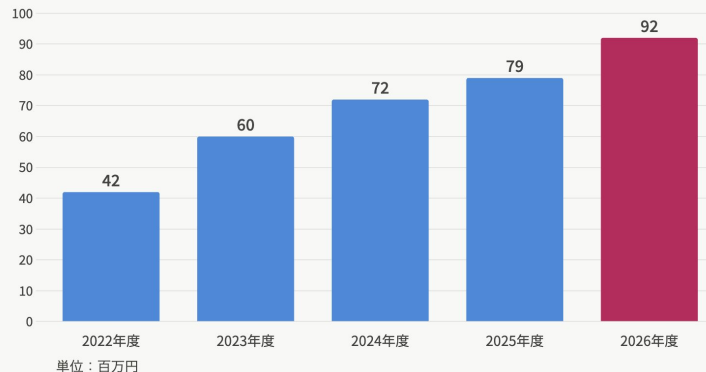
IT分野を始め理工系分野の大学・高専生、教員等に占める女性割合の向上に向け、女子中高生の関心を醸成し、意欲・能力を伸長するための産学官・地域一体となった取組や大学上位職への女性登用等を促進する。

2025

「AIの倫理的かつ公平な社会実装に向け、制度設計段階から倫理・多様性の視点を強化し、ジェンダーバイアス防止体制と人材育成を推進する。」

「AI、IT分野を始め理工系分野の大学・高専生、教員等に占める女性割合の向上に向け、最先端の科学技術を学ぶ機会や理工系の女性ロールモデルに触れる機会を早い段階から継続的に提供するなど、女子中高生の関心を醸成し、意欲・能力を伸長するための産学官・地域一体となった取組及び大学上位職への女性登用を促進する。」

理系進路選択支援プログラム予算



AI時代における女性のテクノロジー分野参画の構造的強化

提言①

女子中高生のAI/テクノロジー学習機会の拡大

AIやテクノロジーを学ぶ教育の機会提供に関する記載を継続。

提言②

地方×女子の継続支援

人口規模が小さい地方はテクノロジーに触れる機会が限られている（内閣府調査,2022）。地方での産学官連携での継続的な機会提供を促進する。

提言③

情報活用能力の抜本的向上を見据えた教員向け教材の開発

民間事業者等と協力し、ジェンダーギャップに配慮した包摂的な教材を開発し、教員をサポートする。

AI時代における女性のテクノロジー分野参画の構造的強化

提言①

リコチャレイベントの拡大に向けたサポート

ネットワーク会議では「何をやればいいかわからない」「社内の理解を得るのに時間がかかった」という声が多く。趣旨やイベントの内容に関するガイドラインを提供し、参加事業者をさらに増加させる。

提言②

地方×女子の継続支援

STEM Ambassador事業の拡大。自分と近いロールモデルの存在が重要であるため、47都道府県すべての出身者をAmbassadorとして任命する。当日の講演ガイドラインの整備やコミュニケーション研修の提供（オーストラリアのSTEM Superstarsを参考）

提言③

新・女性デジタル人材育成プランのアップデート

AI時代、2030年までに事務職・秘書職・受付などの女性が多い職種の雇用が減る見込みなので、コロナ禍で失職した女性と同様のことが起きる可能性が大きい。生成AIを活用できる人材を育てる施策にアップデートを図る。

（根本的な解決には若年層向けのSTEM教育推進が必要）

AI時代における女性のテクノロジー分野参画の構造的強化

提言①

尖った人材を育てる女子向けテクノロジー教育

現在は入口に到達する女子が少なすぎるため、選抜制ではない教育の機会を提供することで「尖った人材」の卵を育てる。

提言②

女子中高生・大学生に向けた早期のアントレプレナーシップ教育

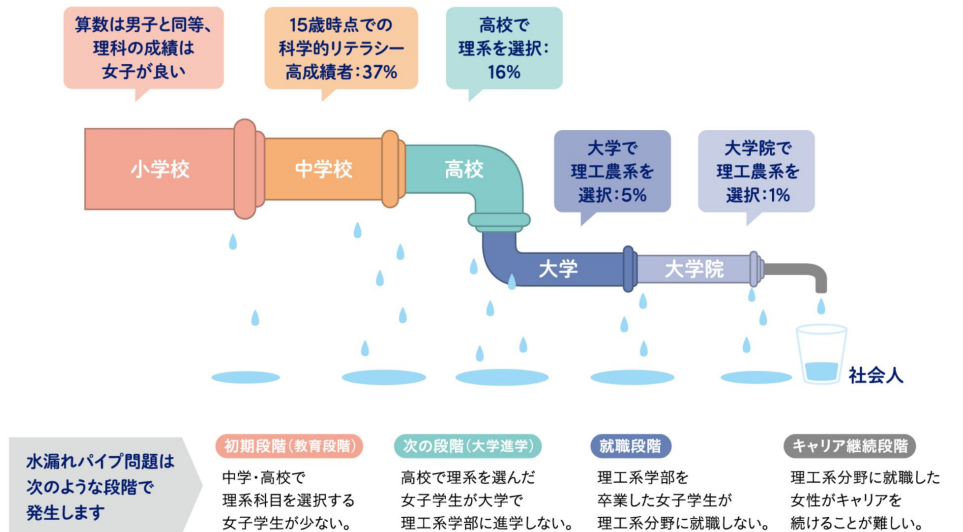
起業意欲のジェンダーギャップを解消するため、アントレプレナーシップに関する講義や女性起業家との交流の機会を作る。

提言③

AIのジェンダーギャップに関する統計調査の実施

AI時代にジェンダーギャップがさらに拡大し、生産性の向上が頭打ちする可能性あり。
未来の政策立案に寄与する調査を実施

女子の理工系進路水漏れパイプ × AI時代の人材不足



出典:PISA(2018), TIMSS(2019), 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局の資料をもとにWaffle作成

AI時代の 高度IT人材需要 約339人不足

2040年

AI・ロボット等利活用人材
(経産省「2040年の就業構造推計(改訂版)について」2026)

細いパイプラインに、AI時代の巨大な高度人材需要が押し寄せる。このままでは女性AI時代から構造的に排除される

イノベーションを起こす「尖った人材」パイプラインの女性比率

経済産業省 未踏事業(2016~2025年度)+J-Startup 5期 ※名前ベースで推定

女性 17.6%

未踏ジュニア

中高生 153名中27名 2016~2025年度

女性 10%

未踏IT人材(本体)

若手 422名中42名 2011~2025年度

女性 12.7%

未踏アドバンスト

起業・事業化 306名中39名 2017~2025年度

女性 6.5%

J-Startup 5期

スタートアップ 31社中女性社長2名

中高生段階(17.6%)に存在していた女性が、起業・スタートアップ段階(6.5%)では3分の1以下に縮小。
これは「選ばれていない」のではなく、前段階で育っていないことが原因。パイプラインの入口を太くすることが根本解決。

AIのジェンダーギャップ

STAGE 1

「触れる」ギャップ

生成AI利用率：男性46% vs 女性32%

NTTドコモ モバイル社会研究所 2026

使わない理由の75%が「知識の低さ」

Lean In / Stanford SSIR 2026

STAGE 2

「使う」ギャップ

上司からの奨励：男性37% vs 女性30%

Lean In 2026

褒められた経験：男性23% vs 女性18%

Lean In 2026

STAGE 3

「評価される」ギャップ

履歴書をAIが読むと女性を「若く・経験不足」に描写

Guilbeault et al.(2025)

AIを活用して同じ成果を出しても女性の評価だけ下がる

Harvard Business School 2025

AIの利用の各段階で、ジェンダーギャップが生じている

AI開発のジェンダーギャップ（アメリカ）

31%未満

AIスキル人材に占める女性
（日本は20%程度と推定）

大学卒業者58%は女性

出典：Stanford AI Index Report・2025年

28%

STEM労働力に占める女性

非STEM労働者は47%が女性

出典：WEF Global Gender Gap Report・2025年

12%

STEMエグゼクティブに占める女性

STEM卒業者の1/3超は女性

出典：WEF Global Gender Gap Report・2025年

悪循環のサイクル

作る側に女性が少ない → バイアスが修正されにくい → 使う側の格差が広がる → さらに参入しにくくなる

おそらく日本のギャップはさらに大きい。正確なデータに基づいた打ち手を検討する必要性

プログラミングが必修修となったが、女子の関心が低い

女の子

100.0% 753人 プログラミングを体験したことがある

49.7% 374人 「かなり関心を持った」「関心を持った」

10.9% 82人 将来プログラミング技術を活かした仕事をしたい

男の子

100.0% 765人 プログラミングを体験したことがある

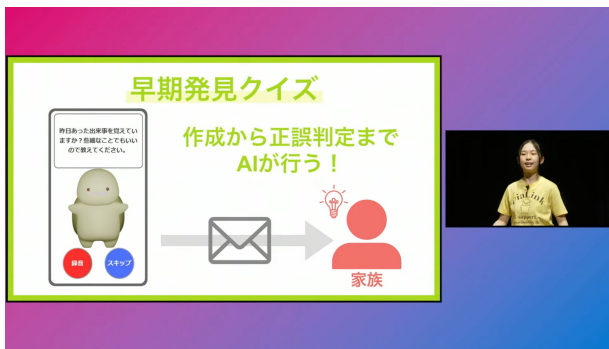
71.5% 547人 「かなり関心を持った」「関心を持った」

30.0% 227人 将来プログラミング技術を活かした仕事をしたい

同じカリキュラムでも関心が上がらない→教員の男女比、周囲の大人のステレオタイプなどが影響

女子がテクノロジーxアントレプレナーシップを学べる裾野を広げる

- 初心者歓迎、プログラム内でテクノロジーとアントレプレナーシップを教える
 - AI/プログラミングとアントレプレナーシップをレクチャー
- 仲間集めをプログラム内ででき、第一線で活躍するメンターが伴走
 - 「1人では参加しづらい」「近くに仲間がいない」という声多数
- 評価基準に社会への影響、倫理も盛り込み、技術だけにしない
 - 審査員は全員女性エグゼクティブ
 - Waffleの評価基準（アメリカのTechnovationを参考）：データプライバシー、アクセシビリティ、環境への影響、特定グループへの偏見・危害など複数の観点
- 選考なしで参加可能。技術の経験を問わず、デジタルを学んでプロダクト開発ができる教育プログラムを提供



選抜制プログラムに参加する前の第一歩を踏める場所が体験格差を埋める

「女性支援」から「地域経済の担い手育成」へ

実施の概要

- **目的**：AIが地域産業に求められるこの転換点に、地方の女子中高生が「自分ごと」として技術を学ぶ機会が不足
- **内容**：Waffle Campを2026年より刷新。地域課題×AIの1day集中型に進化

参加者の変容イメージ

BEFORE

「テクノロジーは自分と関係ない」
「周りに同じ興味の子がいない」



AFTER

「AIで自分にも作れる」
「地元でこういう仕事ができる」
→ Technovation Girls、
未踏ジュニアへ継続

1日の流れ（2026年 福井・長野など合計5自治体で実施予定）

午前

地域課題インプット×チーム編成

地域の方より課題提示、解決したい課題を選定

昼食

地元女性技術者によるキャリアトーク

「地元でこういう仕事ができる」という具体イメージ

午後

AIを使ったプロダクト開発

AIで課題を解決するアプリを制作・改善・フィードバック

夕方

発表・表彰

自治体・企業が評価。優れたプロダクトを表彰

経産省・骨太との接続点

- 地方創生2.0「若者・女性に選ばれる地方」の具体的実装モデル
- AI Changemaker → Technovation Girls（6ヶ月・プロダクト開発）という一貫パイプラインにより、未踏ジュニアにつなげ、次世代の尖った女性リーダーを育成

Waffleで作成した教材

「MESHチャレンジ！プログラム」 MESHでできる教材を紹介



MESH チャレンジ！プログラム

MESHを使って行う様々なチャレンジを集めました。

作成者

・ 一般社団法人Arc&Beyond
・ 特定非営利活動法人Waffle
・ ソニーマーケティング株式会社
MESHプロジェクト

講師用:ファシリテーションの手引

12ezrDx3G2HRizP9dg_J8PK9A7DYNEIZCXHTith7xE
<https://docs.google.com>

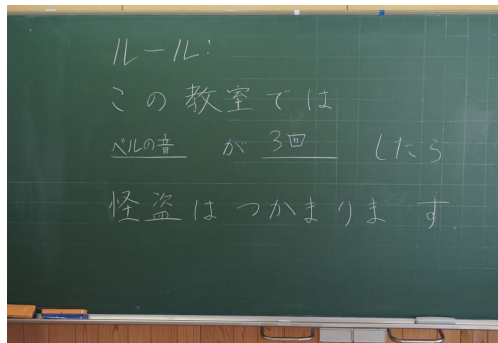
チャレンジプログラムリスト

Aa プログラム	所要時間...	最低人数
ベースワークショップ	1.5	2
1. びっくり箱でビックリ！	0.5h	1
2. 怪盗を捕まえる！	1h-1.5h	2
3. 世界で一番！白雪姫	0.5hから	1
4. A & B - 組み合わせ当てゲーム	0.5-1h	2
5. サプライズケーキを選べ！	1h-1.5h	2
「はい」と「いいえ」と「それわたし！」 人魚姫の大作戦！	0.5	1

予告状

本日深夜0時、あなたの最も大切なお宝をいただきます。

怪盗X団



Waffleで作成した教材

物語xプログラミング

むかしむかし、あるところに
お城に住むおきさきさまがいまし
た。おきさきさまは魔女で、魔法
のかがみを持っていました。



おきさきさまは、毎晩、魔法のか
がみをのぞきこみ、たずねます。

「かがみよかがみ、世界で一番い
い感じなのはだれ？」



かがみは答えます、いつでも、い
つまでも。

「あんたが世界ー！」



！！ミッション！！
MESHで
魔法のかがみをつくらう！

指令：
MESHをそうさして、タブレット
で自撮り写真がとれるようにしよ
う。写真をとったあと、タブレッ
トに「あんたが世界ー！」と言わ
せよう。

音楽xプログラミング

音ゲームを作成

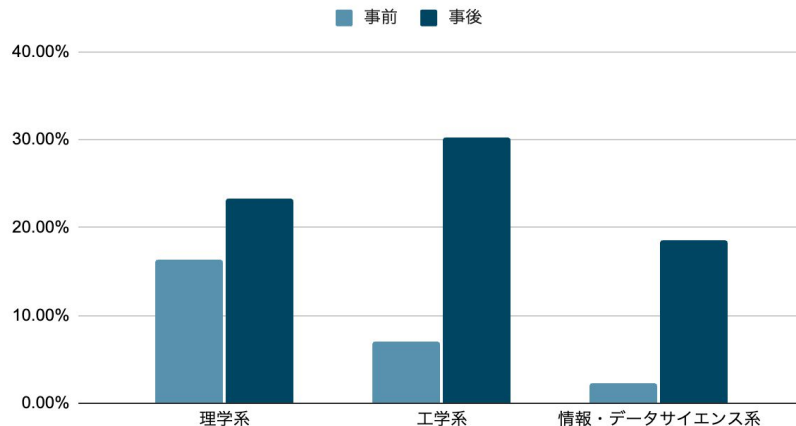


福井県の取り組み

- **課題**：数学・理科の成績は全国トップクラスだが理工学部の女性比率が著しく低い
- **対策**：2023年度より、**県教育委員会が県立6校の女子高校生向けに「ふくいGirls未来のテックリーダー」プロジェクトを開始**。東京・福井県内でプログラミングの研修や、ロールモデルに出会う機会を提供（7日間のプログラム）
- **成果**：プロジェクト参加者の理工系への関心が2倍に



将来大学で勉強したい分野（複数回答可）



福井県調査（2024）よりWaffleより作成
参加者43名のうち上記の分野を選択した回答者の割合

(参考) 好事例

福井県の取り組み

国・自治体レベルの政策にさまざまなステークホルダーが協力することで、理工系を進路の選択肢に入れる女子生徒の増加を期待

